

順天堂医院ニュース 2009 NO.28



新任教授紹介

放射線科

このたび、放射線科教授（平成21年6月1日付）に就任しました。私の専門は、放射線科の中でも放射線を利用してがんを治療する放射線腫瘍学（放射線治療）です。放射線を体に照射することを怖いと思っておられる方が多いと思います。しかし、最近の進歩によって病気に集中して放射線を照射できるようになり、安全な治療になってきました。また、確実性も上がって手術をすることなくがんが治るようになりました。もちろん、放射線だけでは不十分な場合もたくさんあり、手術や抗がん剤と上手に組み合わせる事が大切です。外科医や抗がん剤治療の専門医と相談しながらがんの治療を行っていきたいと思っております。どうぞ安心して受診してください。よろしくお願いいたします。



放射線科
笹井 啓資

新任教授紹介

放射線科

2009年6月1日より放射線科教授に就任致しました。担当は一般放射線部門の診療です。具体的には超音波検査、CT、MRIなどの検査を行い、その診断結果を各科の医師に報告することと、各種疾患の低侵襲治療を各科の医師と共に行うことです。診断レポートは最先端の機器や診断法を用い迅速かつ正確に記載することを目標とし、臨床の診療に役立つように心がけています。

低侵襲治療は、子宮筋腫やがんなどの腫瘍、各種臓器の動脈瘤、血管狭窄、出血等に対する血管内治療や、CTを見ながら身体にたまった膿の部位にカテーテルを挿入して体外に排泄させる治療など種々の病気が対象となります。十分なお説明のもとに診療を行っていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



放射線科
桑鶴 良平

心臓血管外科領域における再生医療

心臓血管外科 丹原圭一

1990年頃より再生医療という新しい研究領域が出現し、心臓血管外科領域でも、2000年前後からその臨床応用が試みられるようになりました。(1) 血管内皮増殖因子や線維芽細胞増殖因子などの血管増殖因子を用いた遺伝子治療、(2) 骨髄単核球細胞や骨格筋芽細胞による細胞移植療法、などの臨床応用が開始され、これまで一定の成果が挙がっています。当院でも、線維芽細胞増殖因子

を虚血に陥った心筋内にゆるやかに投与することにより組織に血管新生を誘導する新たな治療法を、年内をめどにして開発中です。これによって、現在の標準治療である心臓カテーテル治療や冠動脈バイパス術に適さない重症の虚血性心疾患の患者さんの症状や予後の改善に貢献できるものと考えています。



教授
天野 篤



准教授
丹原 圭一

心臓リハビリテーション

循環器内科 島田和典

心臓リハビリテーションとは、単に運動を行うだけではなく、生活指導、食事療法、服薬指導、禁煙指導、心理カウンセリングなどを含めた総合的なプログラムです。現在、急性心筋梗塞、狭心症、冠動脈バイパス術や弁置換術などの心臓手術後、大動脈解離や動脈瘤などの大血管疾患、慢性心不全、末梢動脈の閉塞性疾患が保険適応となり、原則として150日間行うことができます。心臓リハビリテーションは、心血管病の危険因子である、肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症を改善し、心血管病の再発を予防します。また、生活の質 (Quality of Life: QOL) も改善します。当院では、入院、外来どちらでも行うことが可能です。ご質問やご不明な点がございましたら、どうぞお気軽に循環器内科の医師にご相談ください。



准教授
島田 和典



白斑外来

皮膚科 池嶋文子

皮膚科では白斑の患者さんを対象に「白斑外来」を開設しています。白斑は原因不明の皮膚の色が白くぬける病気で、年齢に関係なく発症します。白くなる範囲も1円玉くらいの大きさから、身体のかかなり広い範囲にわたり白くなってしまふ方まで様々です。一部の自己免疫性疾患を合併されている場合もあり、当外来では必要な検査・治療も行っています。根本的な治療法は未だありませんが、世界的に効果があると認められている、塗り薬や特殊な紫外線を用いた治療等を、患者さんの年齢や症状をみながら行っています。治療には時間と根気が必要ですが、以前から悩んでいる方や、気になる症状がある方は、一度皮膚科でご相談ください。



皮膚科教授
池田志孝



助教
池嶋文子

20才になったら子宮がん検診を!

産科・婦人科 寺尾泰久

子宮がん検診には子宮頸がんと子宮体がんの2つの検診があります。子宮は図のように子宮体部と頸部に2つに分かれ、一般に子宮頸がんは子宮頸部（子宮の入り口付近）から発生するがんを指します。子宮頸がんは40-50歳の女性に多いがんですが、いきなりがんが発生するのではなく、前段階の状態を経て子宮頸がんが発生します。まず正常上皮から異形成（軽度・中等度・高度）となり、初期の子宮頸がん（上皮内がん）を経て浸潤がんへと進行していきます。必ずしも全ての異形成ががん化するわけではありませんが、異形成を認めたら定期的な検査が必要です。

異形成や初期の頸がんは全く症状がありません。診断のきっかけは細胞診、いわゆる子宮がん検診です。細胞診検査はほとんど痛みを伴うことはありませんので、20才になったら子宮がん検診を受けるようにしてください。

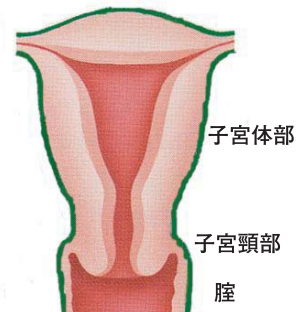
当院では子宮頸がん発症のリスク因子とみなされているヒトパピローマウイルス（HPV）の検査も行っておりますので、当院婦人科外来でご相談ください。



産科・婦人科教授
竹田 省



准教授
寺尾泰久



透析療法(血液透析と腹膜透析)

腎・高血圧内科 清水芳男

様々な病気により、腎臓のはたらきが低下し、透析療法や腎移植などを受ける必要のある状態を末期腎不全といいます。末期腎不全に対する透析療法には、血液透析と腹膜透析の2種類があります。2号館3階の人工腎臓室には、25台の血液透析装置が配置され、医師14名、看護師10名、臨床工学技士6名の体制で診療にあたり、現在74名の方が維持血液透析に通院されています。また、手術などの高度な治療を必要とする際には、入院透析も行っています。

一方、腹膜透析は、在宅で行う治療ですが、定期的に外来診療を受ける必要があります。これまでの1号館の腎・高血圧内科外来から、人工腎臓室に併設された腹膜透析を受けられている方専用の慢性腎臓病（CKD）診療室に移動し、6月から診療を行っています（写真）。



腎・高血圧内科教授
富野 康日己



准教授
清水芳男



看護部ニュース

☆助産師外来 開設しました!

私たち助産師が、皆さんの妊娠・出産・育児を支えます!

産婦人科医師不足や分娩施設の集約化などの影響を受け、当院でも年間分娩件数が平成20年度に921件と、平成18年度の745件と比較して、23%増加しています。そこで、産婦人科医師と助産師がお互いの専門性を発揮しその連携を強化することにしました。

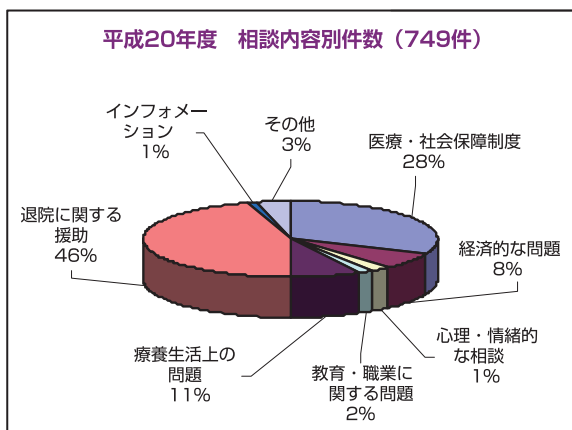
助産師外来では、助産師が妊婦検診を行いながら、妊娠や出産についてお話をお伺いしています。また、出産後は母乳相談や育児相談を担当しています。

助産師外来は待ち時間がほとんどないようにしており、完全予約制です。産科外来受診時に医師にご相談ください。分娩で入院される前に、助産師と気軽にお話しませんか?



医療福祉相談室ニュース

☆ 平成20年度に当室で受けた相談内容の割合は、次のとおりです。



昨年度、当室で新しく受けた相談件数は749件でした。

一番多い相談内容は、やはり「退院に関する援助」で、当院での入院治療を終えられた患者さんの療養先についてのご相談が約半数を占めました。

『介護保険を利用して自宅で生活するにはどうしたらいいか?』『リハビリテーション専門病院や介護療養型病院はどうやって探せばいいか?』といった

ご相談を受けて、地域の病院やサービス提供機関と連絡をとりあいながらお手伝いしています。

次いで「医療・社会保障制度」についての相談が多く、高額療養費限度額適用認定証の手続きの案内や、身体障害者手帳や特定疾患、介護保険の申請の案内などを主にしております。

★4名のソーシャルワーカーが相談をお受けしておりますが、お待たせすることが多くなってきております。お手数ですがご相談をご希望の際には事前にお電話でご予約(03-5802-1207)いただければ幸いです。

栄養部ニュース

微量元素「亜鉛」のはなし

今回は「亜鉛」についてご紹介します。

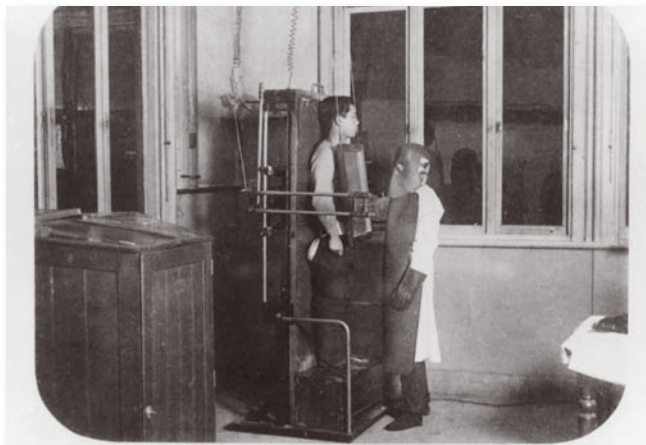
亜鉛は成人の場合、体内2～4g存在し、多くの酵素に含まれます。亜鉛を含む酵素の働きで代表的なものは味覚機能や免疫機能の維持、たんぱく質や遺伝情報物質DNAの合成や糖質の代謝など体内で重要な役割を果たします。

亜鉛の一日の食事摂取基準量は成人男性で9mg、成人女性で7mgです。当院の一般食は一日平均約7.0mg含まれます。多く含まれるものは牡蠣が有名ですが、魚介・肉・豆類などにも含まれます。

*100g中の亜鉛の量…牡蠣 13.2mg、牛もも肉 4.7mg、うなぎ 2.7mg、凍り豆腐 5.2mg
亜鉛は吸収率が不高くないため、吸収を促すためには動物性蛋白質やクエン酸(柑橘類・酢など)、ビタミンCと一緒に摂りましょう。逆に食物繊維やインスタント食品の添加物であるフィチン酸、ポリリン酸などは吸収を妨げます。いろいろな食品を組み合わせ、バランスのよい食事を心がけましょう。



順天堂医院の今昔



(1) 大正時代の放射線科



(2) 最先端の放射線機器



順天堂医院の大正時代の放射線科と最先端の放射線機器

ドイツの物理学者レントゲンが放射線を発見したのは、明治28年(1895)12月であった。このニュースは瞬く間に世界中に広がり、翌年に早くも日本で、4人の学者がX線による写真撮影に成功している。しかし、X線が医学の診断機器として使われるようになるのは大正時代に入ってからであった。当院ではいち早く放射線科を開設して、ドイツ留学から帰国したばかりの藤浪剛一放射専門医を招聘してX線診療を開始した。写真(1)は大正7年頃のX線撮影場所である。放射線被曝を防ぐために、ものものしい防具を身につけている。写真(2)は当院放射線科の最新のMRI撮影装置(2009年)である。

順天堂大学医学部医史学研究室
客員教授 酒井シヅ

順天堂大学医学部附属順天堂医院
〒113-8431 文京区本郷3-1-3
TEL : 03-3813-3111(代表)

編集 病院広報委員会
発行 医療連携室(平成21年7月発行)

ホームページ

<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>

順天堂医院

検索

